AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS
AGU News
AGUニューズ第69号［2013年11月～12月号］
2013
No.69
青山学院大学
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL. http://www.aoyama.ac.jp/

特集
## 2013年度夏期ボランティア・ステーション活動報告
# 思いを行動に変えて、必要とされる場所へ

TOPICS 2013年度から新カリキュラムがスタート
文学部比較芸術学科の授業で、中村勘九郎氏が特別講義
2013年度オープンキャンパス・青学フェア開催報告
「日米学生会議」に国際政治経済学部の濵田りんさんが参加

誌上公開講座 Aogaku Lecture⑫
法廷劇

INFORMATION 2013年度 給付奨学金・学業奨励賞
進路・就職センター／進路・就職課の利用案内
青山学院大学後援会報告
2013年度ペアレンツウィークエンド開催報告

青山キャンパス クリスマス・ツリー点火祭

AGU VOLUNTEER STATION 活動報告

特集

## 2013年度夏期ボランティア・ステーション

# 思いを行動に変えて、必要とされる場所へ

**東日本大震災の直後、「私たちに何かできることをしたい」という学生の思いが生んだボランティア・ステーション。活動を志す学生と協力を求める現地とを結ぶために、この夏も学生自らがプロジェクトを企画し、実行に移しました。その様子について参加学生の代表と顧問の平澤典男副学長に話を聞きました。**

**皆さんそれぞれ参加したプロジェクトで、どのような活動を行ったのでしょうか。**

**久保田**　私は、塩竈に観光客を呼ぶためのウェブサイトの制作に関わりました。実際に町を歩いて、紹介したいお店を取材し、記事をまとめる作業です。若い人たちに魅力をアピールするには、学生の目線が役立つはず。高校時代に参加した青少年赤十字の活動で自分のふがいなさを感じていたので、「誰かのために自分にできることをしたい」という思いを今度こそ実現しようと頑張りました。

**清水**　塩竈市内での経済支援とは別に、私は浦戸諸島での活動に参加しました。きれいな菜の花畑で観光客を集めていた島は津波の影響で菜の花がほとんどなくなってしまいました。これをもう一度復活させようと、畑を耕し、種を蒔く作業を担当しました。個人としての参加ではなく、組織としての活動なのだから、青山学院大学の名前をきちんと背負っていきたいという気持ちで取り組みました。

**田邉**　塩竈でのもう一つの活動は教育支援で、私は小学生の合宿のお手伝いに参加しました。海岸がまだ整備中のため、海に入りたくて仕方がない子どもたちに注意を払いながら一緒に海岸清掃などを行いました。その小学校の子どもたちにとっても、夏休みの宿題の感想文にとりあげたほど印象深かったようです。

**駒木根**　心理的要因等で学校に行けなくなった小中学生を預かる「けやき学級」でも、自分たち大学生の存在は、年齢が近くて親しみやすいという点で、子どもたちに身近に感じてもらえたのではないかと思います。あの震災の後、大学生になったら絶対に東北に行って何か行動しようと心に決めていたので、やっと実現できた思いです。

**徳永**　私も、子どもの頃から海外の貧困地域の映像を見て「何かしたい」と思っていました。その気持ちがさらに強くなったのは、3.11以降です。ボランティア・ステーションの国際部の活動として、物資の少ないフィリピンの島の小学校に赴きました。外国人の私たちが訪れて日本の文化を伝えることで、子どもたちの刺激になり、「学校が楽しい」と感じてもらえる。そのことにボランティアの意義を感じました。

**大城**　距離が離れていると、準備も大変です。私が参加した宮城県多賀城市のプロジェクトは、図書館に活気を取り戻すために、本の読み聞かせや日替わりイベントを行うお手伝いの活動です。実際の様子が逐一わかるわけではないので、何度も現地を訪れ、どうすれば子どもたちが集まるか、図書館員の方との企画立案にいちばん苦労しました。

**瀬川**　それぞれの地域と時期に必要な活動を行うには、やはり自分たちの目で見て状況を判断することが重要だと思います。今回は初参加で企画には関われなかった1・2年生も、次の活動に向けて必要なことを洗い出し、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

**平澤**　そんなふうに学生からわき上がってきた思いを大学が受けとめて形になったのが、このボランティア・ステーション。決して大学側から提供したのではなく、学生が主体となっている。そこが何より素晴らしいと思います。

**活動を通して感じられたこと、自分自身の成長や今後の課題などを聞かせてください。**

**駒木根**　塩竈に行ってみると、良いところがたくさん見えてきました。地元の方々の人柄や食べ物など、塩竈の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。他の学生たちにもこの活動の良さを知ってもらいたいと今強く思っています。

**久保田**　ミーティングを重ね、その結果をみんなに伝え、周囲の意見もきちんと聞いて情報や思いを共有する。ボランティアをする側と必要としている側をうまくつなげるスタッフとして関わったことで、人間関係の大切さを実感しました。ボランティア活動自体はもちろん、共同生活をするということで実家暮らしの学生たちにも良い経験になったと思います。

**田邉**　これまで毎日を何気なく過ごしてきた私にとって、ボランティアの経験はとても大きなものでした。どうしたら参加学生が活動しやすいか、現地の子どもたちにはどう接したらいいか。「よく考えてから行動する」という良いきっかけになったと思います。

**平澤**　社会に出る前に身につけてほしい「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を、この活動でみんな経験しているんだと思います。自分たちで問題を設定して解決し、感動する。これを体験し、繰り返すことで、ボランティア精神が植え付けられるでしょう。それが本学の社会奉仕の精神につながっていくことを願っています。

**清水**　私は、実は現地で「今さらやっても効果はないんじゃないか」という声を耳にしてショックを受けました。けれど、いろいろな作業を手伝っていると、復興の方法は人それぞれなんだと思えてきたのです。とにかく続けることに意義がある。今はそう思っています。

**瀬川**　ボランティア活動を行っていると思いもしないような批判を受けることもありますが、確かにボランティアをする側の自己満足であってはなりません。自分たちが活動を通して解決したいことや成し遂げたいことは何かをまず定義づけし、その目的を最短のスケジュールで達成できるよう心がけています。

**徳永**　ボランティア・ステーションの国際部は、事前に下見に行くこともできず、リスクも大きい。参加学生の体調管理は特に重要ですから、全員が一般募集による学生ではなく、経験あるスタッフとともに現地に赴きます。それだけ慎重に行うべきことだということは自覚しています。

**大城**　有意義な活動ですが、続けるほどにボランティア活動の難しさが見えてくるというのが正直なところです。どこまで関わって良いのか、その境界線の見極めや参加学生のまとめ方など、やればやるほど課題は増えているなと改めて感じました。

**平澤**　さまざまな課題がはっきりしてくれば、解決の方法は必ず見つかります。今後のみなさんの活動に期待しています。

---

ボランティア・ステーション顧問
### 平澤 典男 副学長

東日本大震災があった3月11日当日、首都圏でも帰宅困難者が続出し、本学も青山キャンパスを開放して約9,000人を受け入れました。水やクラッカー、防寒シートなどを、いざ配ろうという時に「僕たちがやります」と率先して行動した学生たち。大学生にもできることはある、と立ち上げられたのがボランティア・ステーションです。この組織の最大の特長は、学生中心であること。そして今もそのまま継続していることです。彼らの活動を大学職員が要所要所で見守り、必要な時にはブレーキをかけ、その報告を私が受ける。学生たちは自主的にのびのびと行動していますが、活動内容は単位をあげたくなるほど素晴らしいものです。学生たちを受け入れてくださった各地の皆様には大変感謝されており、「地の塩、世の光」をスクール・モットーとする本学ならではの奉仕の精神を映し出すような、本当に良いシステムができました。

ボランティアは研究と同じで、やればやるほど難しさを実感するもの。問題点が見つかり、今度はそれをどう解決するかを考えることが成長につながります。「活動すればするほどわからなくなる」という学生たちは、それだけ本気で取り組んでいるということでしょう。

ボランティア・ステーション代表
### 瀬川 達也君
経営学部 経営学科4年

「ボランティアをしたい」という学生側の思いと、ボランティアを必要としている現場とにズレがあり、受け入れられなかったというトラブルがこれまでにもありました。それを避けるために、学生代表として企画の細かいところまで精査し、一歩引いたところで状況を判断するよう努めています。ボランティア・ステーションは、青山キャンパスがある東京・渋谷区の清掃活動など地元地域でも活動していますが、東北地方やフィリピンなど、日帰りが無理な場所での活動には特に注意を払っています。参加する学生の体調管理、きちんとした食事と睡眠時間をとること、慣れない共同生活で起こりがちなトラブルなども想定し、十分な準備をしておくことが大前提となります。どういうプログラム内容であるかと同様に、参加学生の身の安全確保もスタッフとして考えておくべき重要なことです。

ボランティアの成果はすぐには見えませんが、5年10年と継続する中で、やがて「あの時の活動がこんなふうに実った」とつながれば良いなと思っています。今後も、必要とされる場所で、現地の人たちに寄り添いながら活動を続けていくことが大事だと思っています。

# 塩竈プロジェクト

**活動期間：第１陣 8/3〜8/10**
**第２陣 8/10〜8/17**
**第３陣 8/17〜8/24**
**第４陣 8/24〜8/31**
**第５陣 8/31〜9/7**
**第６陣 9/7〜9/20**
**参加人数：のべ126名**

## 経済復興支援

震災で大きな被害を受けた地域のひとつである宮城県塩竈市と、日本三景の松島湾に浮かぶ、湾内唯一の有人離島である桂島、野々島、寒風沢島、朴島からなる浦戸諸島において、草刈りや牡蠣の養殖作業などのお手伝いをしました。地元の方に教えていただければ誰でもできる基本的な作業は特殊な技能を要するものではないため、高齢者の方々に代わって学生の私たちでも積極的に取り組めるものです。牡蠣養殖の復興をめざし、参加学生が約1ヶ月半にわたってたすきをつないで活動しました。

また、塩竈市の観光客増加をめざし、観光ガイドマップとなるウェブサイトを現在制作中です。これは、フィールドワークを通して地元の方々と交流しながら、塩竈市内の魅力あるお店や場所を一つ一つ取材して記事にまとめたもの。時代に合ったPR活動の一端を担います。

## 教育支援

塩竈市内の小学4年生対象の夏合宿をはじめ、海岸清掃やその後に貝殻や砂で立体を作る砂浜アートや天体観測といった課外活動のお手伝い、市立中学校のサマースクールでの学習支援などを行いました。震災の影響で共働きを余儀なくされ、なかなか子どもたちの面倒を見る余裕がない家庭が多い中で、大学生だからこそできた支援です。

また、心に傷を負い、一般の学校に通えなくなった子どもたちが、自分のペースでのびのび勉強できるように設けられた適応指導教室「けやき学級」での学習支援も実施。学業だけでなく、一緒に運動するなど、子どもたちとコミュニケーションを取ることを心がけました。

子どもたちと比較的年齢が近い学生の私たちが、より身近な存在として、心の支えとなれるような活動をこれからも続けていきたいと考えています。

## 塩竈市長が本学を表敬訪問

2013年10月10日（木）、本学のボランティア活動を受けて佐藤昭塩竈市長が市の職員の方々と共に本学に来校されました。佐藤市長は「塩竈市民、特に幼児や小中学生は、学生の皆さんと共に過ごすことを心から喜び、別れの日に涙する人もいたほどです。今では青山学院大学の皆さんの姿・活動を目にすることが、地域住民の気持ちの安定につながっています。これからも皆さんの知恵をお借りしながら、復興に向けて今まで以上にがんばっていきます。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。これに対し、仙波学長も「ボランティア・ステーションをさらに強化し、塩竈の地に定着するよう長く続けさせていただきたい」と、固い握手で応えました。

# 多賀城プロジェクト

**活動期間：8/5〜8/11**
**参加人数：6名**

多賀城市立図書館は、震災時には書架が倒れるなどの大きな被害を受けましたが、現在は補修工事も完了し、通常開館しています。多賀城プロジェクトでは、イベントや学習支援などを通じて市立図書館を地域コミュニティの場とし、町の活性化につなげることを目的に活動しました。

スタッフが事前に何度も足を運び、図書館員の方々とともに企画したイベントは、午前中は紙芝居や本の読み聞かせ、午後は日替わりで万華鏡づくりやシャボン玉づくりなど、みんなが簡単にできて楽しめるものを実施。生き生きと参加する子どもたちの様子を見て、「喜んでもらえてよかった」と安堵しました。また、夏休みの宿題を一緒に取り組むことができたのも、子どもと年齢が近い学生ボランティアだからこそだと思います。

図書館でのボランティア活動という初の試みは、反省点も良かった点も、さまざまな発見があるものでした。今回の経験を次の活動につなげていきたいと考えています。

# フィリピンプロジェクト

**活動期間：8/6〜8/19**
**参加人数：12名**

自然豊かなシキホール島の小学校を巡り、遊びを通して日本の文化を伝えながら子どもたちと交流したり、一緒に海岸清掃を行ったりしました。黒板と教科書以外に楽器や運動用具のない小学校で、折り紙や大縄跳びなど、少しでもエキサイティングなことをして、普段の授業とは異なる体験をしてもらえるような企画を考えました。

また、2012年のプロジェクトでもあった、子どもたちにソーラン節を教える企画を、今年は発展させ、ソーラン節大会を開催。大会本番には、島内にある60校のうち、前年に訪れた学校も含めて全23校の児童が参加してくれました。どのチームも衣装に凝り、踊りもアレンジたっぷりに、各校のアイデアが光る出来映え。驚くほどパワフルな踊りを目にすることができました。

ソーラン節大会と海岸清掃を実施できたことが今年の成果ですが、来年は校庭整備など、学校の環境をより良くする活動を目指します。

## ボランティア・ステーションの紹介

ボランティア・ステーションは「社会に奉仕したいという想いを持つ学生に対し、社会のニーズに合ったボランティア活動の機会を提供し、青学生が『地の塩、世の光』となり、助け合い生きる世界を目指す」というミッションを掲げて発足しました。被災地支援や地域貢献等、本学学生の各種ボランティア活動を支援し、被災地ボランティア情報の提供や共有、ボランティア活動の企画や実際の参加、参加にあたっての心得を学ぶなど、さまざまなことを行っています。

ボランティアに興味がある方はまず、ボランティア・ステーションへお越しください。学生スタッフが常駐しているので、なにかご質問がありましたら気軽にお越しください！

**●青山キャンパス　11号館1163教室〔月〜金〕11:00〜18:00**

ボランティア・ステーションの活動は随時、ウェブで紹介しています。
**大学ウェブサイト** http://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/volunteerstation/
**学生スタッフブログ** http://ameblo.jp/agu-vsta/

## 青山サポーター募金について（ボランティア活動支援募金）

このたび本学では「青山サポーター募金（ボランティア活動支援募金）」を創設いたしました。これは、東日本大震災以降、国内外での組織的な社会貢献活動を続けている「ボランティア・ステーション」の活動補助に充当される募金です。本学のボランティア活動のますますの活性化に、みなさまのご支援・ご協力をお願いいたします。

詳細はコチラ▸▸▸
P12でも詳細をご案内しています。

## 夏期ボランティア協力職員

学生生活部 学生生活課　**斉藤 恭子さん**

政策・企画部が職員の参加スタッフを募集していた際に、学生がどういう活動をしているのか、実際に見てみたいと思い志望しました。学生主体でここまで大きな組織に発展したことは本当に素晴らしいことだと思います。ボランティア活動は、社会に出る前の良い経験になるに違いありません。ただ、活動に熱心になるあまり、自身の疲労に気づかない学生もいます。職員である私たちが注視していなければならないこともさまざまあると感じました。組織として規模が大きくなること以上に、深く濃く、密に活動を続けられる存在であってほしいと思います。

相模原事務部 学務課　**脇坂 剛彦さん**

ボランティア・ステーションの活動は学生が主体ですから、こちらから指示を出すようなことはせず、あまり職員が前面に出ないよう、学生主体をモットーに心がけていました。ただ、最終的には大学関係者が対応しなければならない場面も出てくるため、ともに行動しながら彼らの活動を見守りつつ、協力をしました。

卒業してもボランティアの精神を持ち続けている卒業生は少なくないはず。このボランティア・ステーションが卒業生と在校生で何か一緒に活動できる場になれば良いなと考えています。

# 2013年度から新カリキュラムがスタート

青山学院大学では、学部・学科本来の役割を常に時代と照らし合わせた教育の見直しを行っています。2013年度、文学部日本文学科と法学部では専門性を探求するコースを再編し、新たなカリキュラムをスタートさせました。

## 文学部日本文学科

**世界に発信できる日本語・日本文学の拠点をめざす**

日本文学科では、学科創設時の理念をより活かした教育を展開するため、3年次以降の学びにおいて、「日本文学コース」と「日本語・日本語教育コース」の2コースに再編しました。

「日本文学コース」では、日本文学を国際的な視野から捉える力を養う「文学交流」に関する科目を新設。また、文字テキストだけではなく、演劇・映像・絵画・建築等を対象とする「表象文化」に関する科目を拡充しました。

また、「日本語・日本語教育コース」では、日本語教育と日本語学の分野を1つのコースとして統合。口頭・文章両面の日本語表現力を高める実習形式の授業も開設し、日本語教育を中心に学びたい学生にも日本語学に関心を抱く学生にも、柔軟に対応できるようにしました。

新たなカリキュラムで、日本文学・日本語を見つめ直し、世界に向けて発信していきたいという学生の意欲に大いに期待しています。

**カリキュラム構成**

| 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---|---|---|---|
| **必修科目**　文学研究法／日本文学史 | | | 卒業論文 |
| **選択科目**　概論・入門科目群　講義科目群　演習科目群 | | | 実習科目 |
| **選択必修・自由選択科目**<br>（3年次にいずれかのコースを選び、その中で学びたい分野を中心に研究を深めていきます） | 日本文学コース | | 日本文学中心に履修<br>文学交流中心に履修<br>表象文化論中心に履修 |
| | 日本語・日本語教育コース | | 日本語学中心に履修<br>日本語教育中心に履修 |

## 法学部

**将来の進路を見据えた「専門的職業人」養成の強化**

法学部では、法律専門職や公務員の志望者に対する教育を充実させるとともに、新たな教育モデルの構築・実践にも意欲的に取り組んでいこうと、これまでの6コース制から「ビジネス法」「公共政策」「司法」「ヒューマン・ライツ」の4コースに再編しました。

このカリキュラム改革では、学生が将来、リーガルマインドと実践的な知識を備えた「専門的職業人」として社会のさまざまなポジションで活躍することを大目標としています。

特に、新しい「ヒューマン・ライツコース」では、現在の若者の実状を踏まえ、映像素材・現地調査・討論等を組み込んだ「現実の可視化」による授業を展開。理論と並行してこの世の現実を提示しながら人権問題を扱い、学生への教育効果の波及を狙います。

すべてのコースで「国際性」は基本理念として捉え、独自の英語教育や海外セミナーも充実。法律論のみを詰め込み式に教授するのではなく、専門的かつ自律的な学びに取り組む意欲と能力を養う工夫が盛り込まれています。

| 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---|---|---|---|
| | **科目群Ⅰ**　演習 | | |
| **科目群Ⅱ**　入門／基礎法／外国法 | | | |
| **科目群Ⅲ**　公法／私法／社会法／政治学 | | | |
| **科目群Ⅳ**　（1年次後期から4つのコースに分かれて学びます） | | | |
| ビジネス法コース | | | |
| 公共政策コース | | | |
| 司法コース | | | |
| ヒューマン・ライツコース | | | |

## 青山学院大学・沼田町・法務省保護局によるインターンシップ「協定書調印式」で語られた取り組みへの期待

法学部では、2013年8月4日（日）～7日（水）、「北海道雨竜郡沼田町役場」及び「沼田町就業支援センター」において、官学連携によるインターンシップを実施し、学生11名が参加しました。同センターでは、少年院を仮退院した少年等の保護観察を行いながら、農業実習を通じての自立・更生を支援しています。

本インターンシップは、藤川久昭教授が担当する「インターンシップⅡ」という科目での取り組みで、地域と連携した就労支援の体験や意見交換などを通じて、犯罪や非行からの更生を支える社会づくりに何が必要かを考え、実践することを目的としたものです。実施に先立ち、7月26日（金）には青山学院大学、沼田町、法務省保護局の協力関係を結ぶ調印式が青山キャンパス14号館にて行われ、特別立会人の仙波憲一学長、菊池純一法学部長、金平嘉則沼田町長、齊藤雄彦法務省保護局長が参列し、ともに協定書に署名を行いました。

調印を終えて仙波学長は、「本学の学生たちが大自然の中で主体的に学び、同年代の少年たちとの実習で、自分自身がどう在るべきかを考えることには大きな意味がある」と挨拶。菊池法学部長も「法の知識や客観的な物事の捉え方を現場で体感できるプログラムを、今後も拡充していきたい」と意欲を述べました。

さらに、本学文学部の卒業生でもある金平町長は「このような形で母校に恩返しできて大変誇りに思う。この制度を充実させ、長く継続できるよう協力したい」と語り、齊藤保護局長は「施設の少年たちにとっては、自分たちの自立・更生について、同年代の方々の関心を実感できる機会。彼らの立ち直りにも大きな力となるだろう」と感謝の気持ちを述べられました。有意義なインターンシップとして、今後さらに発展していくことが望まれます。

# 文学部比較芸術学科の授業で、中村勘九郎氏による特別講義が行われました

2012年度に開設した文学部比較芸術学科では、幅広い芸術分野の中から特に美術・音楽・演劇映像の3分野において、その本質に五感を駆使して向き合い、伝統的・古典的作品に特化した学びを展開しています。

2013年7月11日（木）、1年生を対象とした「比較芸術学入門A」の授業において、歌舞伎役者の中村勘九郎氏をお招きし、歌舞伎とは何か、その歴史と魅力についての特別講義を行いました。

壇上に立たれた中村氏は、幼稚園・初等部・中等部・高等部を青山学院で過ごされ、今回、その縁で初の講義を受け持つことに感慨深げ。ご自身の経験を踏まえながら、歌舞伎の世界の奥深さを語られました。

「歌舞伎」という名称の由来に始まり、歌舞伎の発祥から現代に至るまでの経緯や、歌舞伎役者が皆男性である理由などのご説明を通して、学生たちはあっという間に歌舞伎の世界にいざなわれます。本物の台本を教室内で学生に回覧し、それが何分位の演目かについての問いかけや、お弟子さんをモデルに歌舞伎特有の化粧法である隈取りの実演、さらにはいくつかの演目のセリフ回しを実際に披露してその違いを紹介されるなど、内容は盛りだくさん。学生にとってさまざまな面から歌舞伎の世界に触れられる、貴重な時間でした。

質疑応答の後、中村氏は「どんな芸術にも正解はない。観る人の感性はそれぞれ違っていていいのだと思う。今日は歌舞伎を通してそれを伝えることができ、そしてこんなに真剣に聴いていただけて、本当に良かった」と締めくくり、学生たちの大きな拍手で授業は終了しました。

# アニャンゴ・チャリティ・コンサートでの献金がケニアに届けられました

2013年3月10日（日）に青山キャンパスのガウチャー記念礼拝堂で開催されたアニャンゴ・チャリティ・コンサート（主催：青山学院大学、後援：ケニア共和国大使館）において、ケニアの子どもたちの教育のために任意の献金を募った結果、210,000円の献金があり、寄付先をケニア共和国全権大使に委ねました。

◀ラムラ小学校の子どもたちとアニャンゴさん

8月25日（日）、アニャンゴさん（本学校友：向山恵理子氏、日本ケニア文化親善大使）がケニアに赴いた際に、青山学院大学からの寄付証書を「ラムラ小学校」に届けました。

# オープンキャンパス・青学フェア（茨城）開催報告

2013年度のオープンキャンパスは、事前申込制で合計4日程開催しました。いずれの日程も猛暑の中、多くの受験生に来場いただき、総来場者数は30,869名（青山キャンパス合計28,900名　相模原キャンパス1,969名）でした。模擬講義やキャンパスツアーのほか、ボランティアとして多くの在学生の協力を得ることで、受験生と在学生とが直接触れ合うことのできる機会を多く設けました。

また、大学・学部紹介イベントの「青学フェア」を、6月の千葉・埼玉会場に引き続き、9月21日（土）には、つくば国際会議場（茨城会場）で開催しました。来場者からは「じっくりと学生・教職員と接することができた」と好評を博し、盛況のうちに幕を閉じました。

# 本学とも縁の深い「日米学生会議」に国際政治経済学部の濵田りんさんが参加しました

**濵田 りん**さん
国際政治経済学部
国際政治学科２年

日米の学生が約1ヶ月間共同生活を行いながら、議論を通して相互理解を深める「第65回日米学生会議（Japan-America Student Conference：JASC）」に参加しました。日米学生会議は、1934年に創設された日本初の国際的な学生交流団体で、第1回は青山学院で開催されました。本会議は、毎年日本と米国で交互に開催され、今年は日本（京都、長崎、岩手、東京）で2013年8月2日（金）～24日（土）に行われました。日米各36名、計72名の学生が7つのグループ（分科会）に分かれて活動しますが、私が所属した分科会では、「現代における日米両国の教育問題」をテーマに討論を重ね、その成果を同月22日（木）、青山キャンパスで開かれたファイナルフォーラムで発表しました。

最初は英語で発言するタイミングを掴むのに苦労しましたが、周囲のモチベーションの高さに「私もがんばろう」と意欲的になれました。国籍や文化による考え方の違いはそれほど感じることなく、むしろ個々の意見の幅広さに気づかされました。教育について見直すきっかけになるとともに、これからの教育のあり方を考え、現在の問題点を改善して次の世代につなげたいと思うようになりました。

5月からの事前活動も含め、授業との両立は大変でしたが、各地での訪問研修など、さまざまな活動や共同生活を通して、日米を問わず多くの仲間ができ、お互いの信頼関係も深まりました。

本気で問題解決に取り組もうという志の高い仲間と出会えたことは、何より大きな収穫です。この貴重な経験を経て、国際交流への関心がさらに強まり、今後も多くの人と関わりながら自分を高めたいと思っています。

誌上公開講座 068

Aogaku Lecture 12

# 法廷劇

## 「コリアンタウンの長い午後」

大石 泰彦
法学部法学科 教授

法の学びは、現実に即したものでなければならない。法学部生だからこそ現実の世界で起きている事象や、人がどのように生きているのかを見つめ、考えるべきではないか。そんな思いを実践しようと試みたのが、模擬法廷を使用した、ゼミナール（ゼミ）学生による「法廷劇」です。私のゼミでは3、4年生を対象にメディア法について研究しています。法廷劇は、人間の生き方や利益などが裁判でぶつかり合う様子をドラマ化し、劇を通じて法の世界に触れ、観客の方々に法について考えていただこうと、2年前の青山祭で制作・上演したのが始まりです。

今年は国際法を学ぶ五十嵐ゼミの学生と共同で、オープンキャンパスでの上演に向けて6月から新作に取り組みました。観客である高校生と保護者の方々に法廷の雰囲気や裁判について伝えることはもちろん、作り手である学生自身が制作過程において自分の考え方を明確にし、コミュニケーションの力を身につけていくことも法廷劇での学びの狙いのひとつです。

作品のテーマに掲げたのは、在日外国人へのデモ活動での言動に対する訴訟。非常に難しい問題ですが、学生たちの意欲はとても大きいものでした。やるからには、これまでの判例や日韓の歴史などを調べ、慎重に取り組まなければなりません。世の中にはさまざまな人が生きていて、ぶつかり合うこともある。相手がどんな人なのか、どのように生きてきたのかを想像し、考える力を持つことが法学を学ぶ上では重要です。総勢24名の学生たちもそれぞれが考え、議論を重ねながら創り上げていきました。

映像と演劇を組み合わせるなど、エンターテインメントとしての面白さを追求する一方、キャストもスタッフも一人ひとりがそれぞれのパートで互いの役割を理解して尊重する中で、自分の考えを主張し、討議を重ね、社会に出てから求められる力を身につけていきます。私たちは演劇部ではないし、サークル活動でもなく、法廷劇はあくまでもゼミでの学びの一環です。就職活動においても、社会人となってからも必要とされるコミュニケーション能力は、“経験”でこそ得られるものだと考えています。そのため、普段の授業でもディベートを行い、とにかく話すことや自分の言葉で意見を述べることを重視しています。

今回の法廷劇では、制作段階から上演まで皆、気持ちをひとつにして切磋琢磨しました。一方、制作過程において、個々の問題点や認識のあやまり、限界なども見えてきました。今後は学生自身が自己を客観視し、自身の問題点を認識するよう、私から問いかけていこうと思っています。それによって今回の劇を通じて生まれたゼミの一体感が崩れてしまうかもしれませんが、それでも、再構築の可能性を信じて妥協はしないつもりです。法廷劇を作り上げた彼らならそれができると信じています。

**大石ゼミ学生**
加藤 江梨奈さん
法学部法学科3年

1年次に履修した必修科目で、大石先生から「世の中で起きていることに常に目を向けなさい」と言われ、心動かされたことが大石ゼミを選択したきっかけです。「法廷劇」の制作過程では、勉強すればするほど「私たち学生が扱える問題だろうか」と迷いましたが、それでも見てみぬふりはやめようという気持ちで取り組みました。劇を創り上げ、演じたことで自信にもなりましたし、制作に携わったメンバー同士の助け合いを通じて、周りにも目を向けられるようになったのではないかと思います。法曹の道を目指すだけではない、法学部の学びや法を学ぶ楽しさを観客の方々にも感じていただけたら嬉しいです。



# Information

## 2013年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。

2013年度は6月26日（水）、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。

### 〈大学給付奨学金〉

文学部／近井 綾
文学部／三輪 一貴
文学部／津久井 愛河
文学部／榊原 アンナ
文学部／中村 令
文学部／平野 結香
文学部第二部／原 朱美
教育人間科学部／柴岡 由紀
教育人間科学部／阿部 希
教育人間科学部／澁谷 恵美
経済学部／柴田 愛
経済学部／畠中 しおり
経済学部／齋藤 弘隆
法学部／中山 愛香
法学部／長橋 佑太朗
法学部／田中 千花乃
経営学部／川﨑 千聡
経営学部／藤間 結
経営学部／堀内 友理恵
国際政治経済学部／横田 瑞希
国際政治経済学部／野村 るり
国際政治経済学部／佐藤 絵梨香
総合文化政策学部／山口 円花
総合文化政策学部／金 善榮
総合文化政策学部／吉田 晴香
理工学部／河本 真弥
理工学部／河瀬 一平
理工学部／吉田 颯
理工学部／鈴木 優一
理工学部／小林 徹也
理工学部／嶋田 桃子
社会情報学部／藤井 絢子
社会情報学部／福泉 弘樹
社会情報学部／今村 菜津子
以上34名

### 〈外国人留学生給付奨学金〉

文学部／胡 正華
経済学部／翟 露
経営学部／李 承文
経営学部／李 秀妍
経営学部／黄 封川
国際政治経済学部／裵 廷恩
理工学部／王 亜楠
理工学部／李 天然
以上8名

### 〈大学院給付奨学金〉

文学研究科／岩井 恵利奈
文学研究科／名嘉眞 知美
文学研究科／嘉村 雅江
文学研究科／島田 悠
教育人間科学研究科／仲村 拓真
教育人間科学研究科／池上 真平
経済学研究科／林 裕規
経済学研究科／小西 徹
経営学研究科／原 聖来
経営学研究科／大野 雅子
国際政治経済学研究科／仲野 友子
国際政治経済学研究科／廣田 美穂子
国際政治経済学研究科／藤岡 淑恵
国際政治経済学研究科／吉浦 由季子
総合文化政策学研究科／葛西 翔
総合文化政策学研究科／塩田 伸一
理工学研究科／片野 祐
理工学研究科／櫻井 翔也
理工学研究科／鳥越 祥文
理工学研究科／村上 真也
理工学研究科／秋友 克哉
理工学研究科／大関 裕明
理工学研究科／森下 貴之
理工学研究科／新井 雄大
理工学研究科／齊藤 梓
社会情報学研究科／下村 美緒
社会情報学研究科／吉田 智彦
社会情報学研究科／赤松 洋子
社会情報学研究科／安斎 聡子
国際マネジメント研究科／小谷 恵子
国際マネジメント研究科／古手川 暢哉
国際マネジメント研究科／大澤 知自
国際マネジメント研究科／鈴木 克巳
国際マネジメント研究科／田川 秀樹
国際マネジメント研究科／吉田 尚
以上35名

### 〈学業奨励賞〉

文学部／石川 朋美
文学部／衣斐 宏亮
文学部／岡村 菜摘
文学部／上代 佳苗
文学部／小林 修子
文学部／佐藤 桜子
文学部／原 真衣子
文学部／梅澤 夏実
文学部／呉地 佑香
文学部／堀内 美希
文学部／中村 友美
文学部／飯島 百合子
文学部／岡村 真智子
文学部／菅藤 如水
文学部／角田 咲智
文学部／榎本 郁
文学部／羽賀 由紀子
文学部／林 明日美
文学部／藤山 恵実
文学部／小玉 真未
文学部／鈴木 友香
文学部／岩井 康平
文学部／高橋 葵
文学部第二部／米田 真知子
教育人間科学部／槙 哲也
教育人間科学部／山田 拓哉
教育人間科学部／阿部 将大
教育人間科学部／栗村 彩香
教育人間科学部／前川 佳奈実
教育人間科学部／大家 千晶
教育人間科学部／川村 知代
教育人間科学部／酒田 楓子
教育人間科学部／金﨑 ちはる
教育人間科学部／木村 美佳
経済学部／佐々木 柚花
経済学部／西 隆彰
経済学部／林 恵輔
経済学部／浅沼 真美子
経済学部／沖 裕明
経済学部／白石 理恵
経済学部／丸谷 杏子
経済学部／浅井 健太郎
経済学部／沼 瑞季
経済学部／持永 勇登
経済学部／山崎 遥子
経済学部／矢島 奈菜
経済学部／秋元 和弥
経済学部／小山 璃子
経済学部／一ノ瀬 朝子
経済学部／大島 真帆
法学部／木村 燦
法学部／木本 和
法学部／西山 晴基
法学部／野本 峻平
法学部／長谷川 亮
法学部／石塚 史帆
法学部／遠藤 翔太
法学部／菊地 里奈
法学部／北 龍悟
法学部／澁谷 有里
法学部／赤間 萌衣
法学部／伊澤 環
法学部／鈴木 麻文
法学部／平 紗季
法学部／高橋 麻未
経営学部／岩立 紗智子
経営学部／清水 友紀
経営学部／塚田 瑞紗
経営学部／新江 美伽
経営学部／岡村 愛香
経営学部／木下 智絵
経営学部／林 美緒
経営学部／遠藤 雅也
経営学部／大坂 亮介
経営学部／三平 彩夏
経営学部／山田 偉久
経営学部／李 秀妍
経営学部／青山 佳世
経営学部／大野 杏奈
経営学部／日置 浩介
経営学部／山谷 直緒
国際政治経済学部／渡辺 理子
国際政治経済学部／田中 沙奈
国際政治経済学部／小峯 豊
国際政治経済学部／市瀬 寛和
国際政治経済学部／越沼 舞
国際政治経済学部／長 智子
国際政治経済学部／小出 研斗
国際政治経済学部／末永 千夏
国際政治経済学部／粟野 愛香
総合文化政策学部／高岸 優
総合文化政策学部／森岡 渉
総合文化政策学部／渡邉 紗和
総合文化政策学部／伊知川 美聡
総合文化政策学部／小川 菜摘
総合文化政策学部／鈴木 桜子
総合文化政策学部／伊藤 駿
総合文化政策学部／田嶋 いづみ
理工学部／池田 亜瑞沙
理工学部／林 晃弘
理工学部／藤田 知也
理工学部／岸井 奈緒美
理工学部／名取 智基
理工学部／森田 麻美
理工学部／岡本 律希人
理工学部／瀬戸 春輝
理工学部／中野 智志
理工学部／野水 優里香
理工学部／野瀬 かおり
理工学部／田下 俊樹
理工学部／三枝 郁
理工学部／衣笠 圭亮
理工学部／市川 雄一朗
理工学部／秋原 諒
理工学部／定司 栞
理工学部／千葉 渉平
理工学部／深田 隆恭
社会情報学部／髙橋 陽子
社会情報学部／鳥海 瑛子
社会情報学部／丸尾 静
社会情報学部／岡田 大輔
社会情報学部／萩原 千絵
社会情報学部／岡本 夏海
社会情報学部／尾﨑 友理子
以上124名

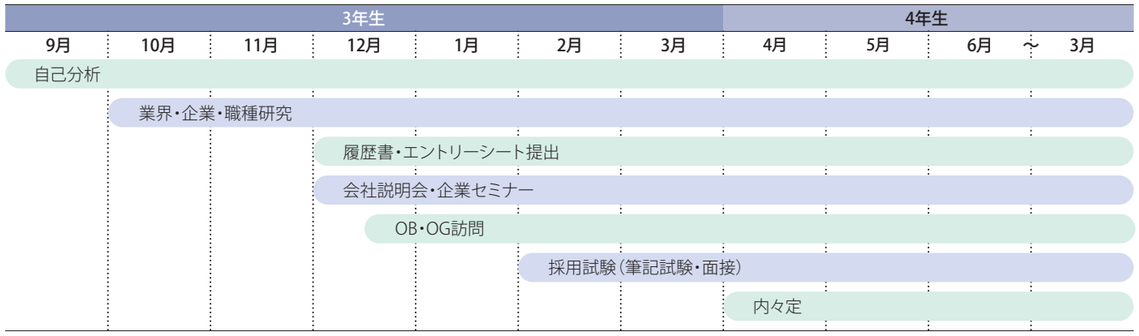
# Information

## 進路・就職センター／進路・就職課の利用案内

大学卒業後の進路は、就職（企業・公務員・教員）、大学院進学、各種資格試験準備と多様化しています。青山キャンパスの進路・就職センターならびに相模原キャンパスの進路・就職課では、学生の皆さんの多様な進路に対応し、卒業後までを見通した柔軟で的確なキャリア・サポートを目指しています。年間を通して、①きめ細やかな個別相談、②350以上の進路・就職支援行事、③各種資料・情報の提供を実施し、一人ひとりが「納得のいく進路選択」ができるように、スタッフ全員で支援していきます。

### 就職活動の流れ

※民間企業の一例です。業界・職種、公務員、教員、進学など目指す進路によって異なります。




### 支援体制

**個別相談**

青山キャンパスでは職員14名、相談員9名が、相模原キャンパスでは職員5名、相談員2名が、常時個別相談にあたっています。ともに考えて話し合うことで、一人ひとりが納得のいく進路・就職ができるように支援を行っています。

相談内容は多岐にわたり、自己ＰＲやエントリーシートの確認、業界研究の方法といった就職に関することのほか、進学や留学等、それぞれの進路に応じたきめ細かい対応を心がけています。就職活動に関する悩みを一人で抱え込まずに、気軽に相談に来てください。

| 青山キャンパス | |
|---|---|
| 月・水・金 | 9:30～11:30　12:30～19:00<br>（資料室は9:00～19:00） |
| 火・木 | 9:30～11:30　12:30～17:00<br>（資料室は9:00～18:00） |
| 土 | 9:30～12:00（資料室は9:00～13:00） |

| 相模原キャンパス | |
|---|---|
| 月～金 | 9:00～11:30　12:30～17:00 |
| 土 | 9:00～11:30 |

※青山キャンパス個別相談 午後の部は予約制です。
※上記の他にもさまざまな行事を開催しています。日程・場所などの詳細は学生ポータル、Web Ash、掲示板で確認してください。

**主な進路・就職支援行事（11, 12, 1月）**

**青山キャンパス**

11月
- 公務員 業務説明会
- OB・OGによる仕事・業界セミナー
- SPI対策-集中講座
- 内定者による報告会
- 就活前・働く前に知っておこう
- 仕事研究セミナー「知られざるNo1企業」
- 模擬面接／グループディスカッション
- エントリーシート対策講座

12月
- 学内企業説明会
- OB・OGによる業界研究会
- SPI対策-模擬試験
- 公立学校教員選考学内説明会
- 公務員試験合格者報告会

1月
- 5大学合同リアル模擬面接会
- OB・OGによる模擬面接会

**相模原キャンパス**

11月
- 業界・企業研究会
- 職種研究セミナー
- エントリーシート対策講座
- 内定者による相談会
- 優良企業発見セミナー
- グループディスカッション対策講座
- 社会人による仕事理解セミナー
- 留学と就職セミナー

12月
- 合同企業セミナー
- 5大学合同模擬グループディスカッション・面接
- Webテストセンター模擬試験
- キャリア支援セミナー

1月
- 最終確認SPI2模擬試験
- 学科別就職ガイダンス
- 公務員試験対策講座

### 進路・就職情報の提供

**進路就職支援システム「Web Ash」**

「求人情報」、「会社説明会情報」、「内定実績」、「OB・OG（就職アドバイザー登録者）情報」「入社試験報告書」など本学独自の情報を掲載しています。また、行事欠席者のために動画配信もしています。

**資料室・資料コーナー**

上場企業をはじめとする各企業のパンフレットや就職関連の雑誌、新聞、書籍、全国の公務員資料等を揃えています。

また、情報収集用のパソコンを備え付けています。

**保護者向け就職ガイダンスの映像配信**

7月4日に、青山キャンパスにて実施した「保護者向け就職ガイダンス」の映像を本学ウェブサイトにて配信しています。

http://www.aoyama.ac.jp/へアクセスいただき、ページ上部の「学生生活・進路」メニューよりご覧ください。



## 青山学院大学後援会報告

青山学院大学後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその他有志が会員となり、会員から拠出される会費（在学生保証人分は学費に含まれています）をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンドの開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会（総会）で審議・決定されます。この度、2012年度決算と2013年度予算がまとまりましたので、ここにご報告いたします。

2012年度は、体育会強化指定部（硬式野球部、ラグビー部、男子バスケットボール部、女子バレーボール部、陸上競技部）、ソフトテニス部、サッカー部、応援団、レスリング部、吹奏楽バトントワリング部、ロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラの活動費用を一部補助したほか、各団体の指導者（監督、コーチ、指揮者など）への謝礼を拠出しました。2013年度もこれらの学友会活動を引き続き援助するほか、就職活動補助、ボランティア活動補助など、より充実した支援ができるように取り組んでまいります。

〈参考〉後援会費　第一部：6,000円　第二部：4,000円　大学院：3,000円

### 2012年度 決算

**収入の部**　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 前期繰越金 | 12,858,544 |
| 会費収入 | 108,813,000 |
| 貸付金回収収入 | 500,000 |
| 合計 | 122,171,544 |

**支出の部**　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 学生活動関係 | |
| 学友会活動補助 | 30,886,487 |
| 学友会活動指導補助 | 12,520,000 |
| 保険料 | 19,650,850 |
| 奨学金事業補助 | 14,500,000 |
| 大学行事補助 | 356,535 |
| アドバイザー・グループ会合費補助 | 645,000 |
| ゼミナール活動等補助 | 500,000 |
| 教育環境整備補助 | 7,000,000 |
| 奨励金 | 0 |
| 就職活動補助 | 2,611,250 |
| ボランティア活動補助 | 1,116,596 |
| 後援会行事関係 | |
| ペアレンツウィークエンド費 | 18,892,045 |
| 旅費交通費 | 90,000 |
| 会議費 | 1,185,715 |
| 消耗品費 | 0 |
| 通信費 | 21,320 |
| その他 | |
| 慶弔費 | 270,000 |
| 【予備費】 | 450,000 |
| 支出計 | 110,695,798 |
| 次期繰越金 | 11,475,746 |
| 合計 | 122,171,544 |

### 2013年度 予算

**収入の部**　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 前期繰越金 | 11,475,746 |
| 会費収入 | 105,617,000 |
| 貸付金回収収入 | 500,000 |
| 合計 | 117,592,746 |

**支出の部**　（単位 円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 学生活動関係 | |
| 学友会活動補助 | 32,000,000 |
| 学友会活動指導補助 | 12,500,000 |
| 保険料 | 19,111,000 |
| 奨学金事業補助 | 20,000,000 |
| 大学行事補助 | 1,000,000 |
| アドバイザー・グループ会合費補助 | 660,000 |
| ゼミナール活動等補助 | 0 |
| 教育環境整備補助 | 7,000,000 |
| 奨励金 | 500,000 |
| 就職活動補助 | 4,200,000 |
| ボランティア活動補助 | 1,000,000 |
| 後援会行事関係 | |
| ペアレンツウィークエンド費 | 17,000,000 |
| 旅費交通費 | 100,000 |
| 会議費 | 1,200,000 |
| 消耗品費 | 50,000 |
| 通信費 | 50,000 |
| その他 | |
| 慶弔費 | 300,000 |
| 【予備費】 | 921,746 |
| 合計 | 117,592,746 |

## 2013年度 ペアレンツウィークエンド開催報告

ペアレンツウィークエンドは、大学後援会事業の一環として、在学生の保護者の皆様に大学の近況や学生の皆さんの成績・進路・就職などのご相談やご意見をお伺いするために、経験豊かな大学教職員が協力して説明会や個別面談を通して保護者の皆様により一層大学のことを知っていただくイベントです。

### 地区開催ペアレンツウィークエンド

7月7日（日）群馬・富山・熊本会場を皮切りに、全国18会場において、地区ペアレンツウィークエンドを順次実施いたしました。地区会場では大学代表者による挨拶や、大学の近況報告に引き続き、各部署の担当者より学業成績、就職、学生生活についての説明をいたしました。その後の昼食会は保護者の皆様と大学教職員の懇談の場として企画しておりますが、本年度は校友会各支部のご協力を得て地元就職に関する情報もお伝えすることができました。新たな企画として、次年度に向けて良いスタートができたと思います。

本年度もペアレンツウィークエンドの全日程を無事終了することができました。ご参加いただいた保護者の皆様に深く感謝いたします。

名古屋会場

福岡会場

秋田会場（昼食会）

**地区別開催日程・会場一覧**

| 対象道府県 | 対象都市 | 開催日 | 会場名 |
|---|---|---|---|
| 群馬 | 高崎 | 7月7日（日） | ホテルメトロポリタン高崎 |
| 富山 | 富山 | 7月7日（日） | ANAクラウンプラザホテル富山 |
| 熊本 | 熊本 | 7月7日（日） | ホテルニューオータニ熊本 |
| 北海道 | 札幌 | 7月13日（土） | ニューオータニイン札幌 |
| 栃木 | 宇都宮 | 7月14日（日） | 宇都宮グランドホテル |
| 山口 | 山口 | 7月20日（土） | 山口グランドホテル |
| 徳島 | 徳島 | 7月20日（土） | ホテルクレメント徳島 |
| 宮崎 | 宮崎 | 7月21日（日） | ホテルスカイタワー |
| 秋田 | 秋田 | 7月28日（日） | 秋田キャッスルホテル |
| 福岡 | 福岡 | 8月4日（日） | ホテルニューオータニ博多 |
| 愛知 | 名古屋 | 8月4日（日） | キャッスルプラザ |
| 広島 | 広島 | 8月17日（土） | ホテルグランヴィア広島 |
| 京都 | 京都 | 8月17日（土） | リーガロイヤルホテル京都 |
| 静岡 | 静岡 | 8月18日（日） | ホテルアソシア静岡 |
| 兵庫 | 神戸 | 8月18日（日） | ANAクラウンプラザホテル神戸 |
| 山梨 | 甲府 | 8月24日（土） | 常磐ホテル |
| 福島 | 福島 | 8月25日（日） | 福島ビューホテル |
| 宮城 | 仙台 | 8月25日（日） | 仙台国際ホテル |

# 青山学院エバーグリーン募金　奨学金募金

## 『青山学院スカラーシップ』による＂顔の見える学生支援＂

### 「青山学院スカラーシップ」について

**1．スカラーシップの概要**

青山学院スカラーシップは、青山学院で学ぶ在校生を支援する奨学金制度充実に向けた、ご寄付による給付型奨学金制度です。勉学及び課外活動に燃える学生を経済的側面からご支援いただくことによって、青山学院における学園生活の充実を図ることを目的としています。

**2．奨学金の種類**

①冠奨学金

寄付者の意向に沿い、お名前を冠する給付奨学金で、一人年間15万円以上の奨学金を給付します。

②エバーグリーン奨学金

任意または匿名の1口1万円以上のご寄付により、他の同様の寄付と合わせて一人年間15万円の奨学金を給付いたします。

**3．寄付金額**

①冠奨学金・・・15万円以上でお願いいたします。

②エバーグリーン奨学金・・・1口1万円以上でお願いします（ご都合に応じ、金額にかかわらずありがたくお受けいたします）。

ウェブサイトからもご応募いただけます。　青山学院　募金　検索

### 寄付申込みから奨学金給付までの流れ

ご寄付受付（募金事業局）

↓

**3月**　冠奨学金の給付・配分の決定（青山学院スカラーシップ管理運営委員会）

↓

**4月～**　奨学生の募集

↓

**7月**　奨学生の決定（青山学院スカラーシップ管理運営委員会）
↓
奨学生に奨学金の給付・寄付者メッセージカード配布
↓
寄付者に奨学生決定を通知

↓

**11月**　寄付者へ奨学生受給報告書・奨学生アンケート結果を送付

青山学院 奨学金募金 資料申込み先

青山学院募金事業局（間島記念館２階）
TEL：03-3409-6208　FAX：03-3409-3890
Mail：bokin@aoyamagakuin.jp
ウェブサイトからも資料請求ができます。
https://www.aoyamagakuin.jp/fund-raising/index.cgi

# 青山サポーター募金（スポーツ振興資金・ボランティア活動支援募金）

本学は、教育研究の充実とスポーツやボランティア活動等の活性化を通じて、「人と痛みを分かち合い、人種、性別、国籍、宗教を問わず積極的に助け合いの行動を起こす"青山らしい人材"」を育成することが使命であると考えております。

そこでこのたび、青山学院大学のスポーツ振興・ボランティア活動など、主に学生の各種活動の支援を目的とした募金として、『青山サポーター募金』を2013年9月23日より開始いたしました。募金開始にあたりご支援をお考えの皆様のご負担を軽減できるよう、Web決済システム（クレジットカード決済、インターネットバンキング決済（ペイジー））を導入いたしました。

ぜひ、未来ある学生へのご支援をご検討いただくとともにWeb決済システムをご活用いただきたくよろしくお願いいたします。

青山サポーター募金　検索

青山サポーター募金 問い合わせ先

青山学院大学
政策・企画部　政策・企画課
TEL：03-3409-9612
Mail：PG-agu_supporter@aoyamagakuin.jp
http://kifu.aoyama.ac.jp/（スマートフォン対応）

# Club & Circle 19 茶道部

## お稽古だけに終わらない豊富なイベントが魅力です。

毎週水・金曜日に、青山キャンパス7号館4階にある和室でお稽古をしています。主な行事としては、学外の施設を借りて他大学の学生や卒業生などをお招きする「常盤樹茶会」、青山祭での「青山祭茶会」、卒業生とともに新年を祝う「初釜茶会」などがあります。また、毎年8月と2月の合宿や、他大学の茶道部が主催するお茶会に招かれたり、お稽古以外にも豊富なイベントがあります。

お稽古を通して茶道の作法が身につくのはもちろんですが、それ以外にも、和室での立ち居振る舞いや季節の生花についてなど、普段の生活では得難い知識が自然と身につくことも茶道部の魅力です。また、他大学の学生と交流できる機会が多く、学外に友だちをつくりやすいのもメリットだと思います。

勉強やアルバイトなど、いろいろと忙しい大学生活の中で、たまには心静かに落ち着いた活動をしてみてはいかがでしょうか。少しでも興味がある方は、ぜひ一度、茶道部にいらしてください。

（部長：経済学部経済学科3年　東 悠貴）

## AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●AGUニューズのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
●AGUニューズを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口　青山キャンパス→スチューデントセンター・学生生活部
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活課

発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL.03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2013青山学院大学

●2013年10月31日発行●